

令和8年度6月補正予算(案)の主要取組

令和8年6月4日

- **A 子育て支援の充実**
- B 地域経済の活性化
- C 地域資源を活かしたまちづくり
- D 移住の促進
- E その他

1 大浜公園プールこども料金無料化(7月の平日)

緑地政策課

補正額

| 事業費 | 国庫支出金 | 県支出金 | その他(寄附金) | 一般財源 |
|---------|-------|------|----------|------|
| 2,500万円 | | | 2,500万円 | |

背景

- 大浜公園は、PFI事業として健全な運営の実現を目指し、2025年7月にリニューアルオープンした。
- 昨年は9.4万人来訪し、楽しんでいただいているが、平日(特に夏休み期間外)の利用者数が休日より少なく、平日利用の促進が課題となっている。
- また、複数回利用する世帯を中心に、こども利用料金の負担軽減を求める声がある。
- こうした中、大浜公園プールこども料金の無料化等に活用してほしいと、2,500万円の寄附の申し出があった。

目的

- こども料金無料化による平日の利用促進の効果や運営への影響等を検証し、今後の子育て世帯の利用機会を拡大するとともに利用者数の増加を図る。

実施内容

寄附金を活用し、大浜公園のプールのこども利用料金を試験的に無料化する。

無料化による減収分は、負担金としてPFI事業者へ支払う。

・無料化実施期間 7月6日(月)～7月31日(金)の平日 計19日間

夏休み期間外の平日には、周辺に住むこどもたちが放課後に利用することや、平日休みの世帯が家族で利用することなどを想定

・無料対象 市内外のこども(中学生以下)、幼児(3歳以上)

| 料金区分 | 市内在住 | 市外在住 |
|------------|------|--------|
| 大人(高校生以上) | 800円 | 1,000円 |
| こども(中学生以下) | 400円 | 500円 |
| 幼児(3歳以上) | 100円 | 100円 |

【参考】大浜公園プールの営業期間及び営業時間

7月4日(土)～8月31(月)、
9月5日(土)、6日(日)、12日(土)、13日(日) 計63日間
9時30分～18時00分

7月の平日19日間は無料

- A 子育て支援の充実
- **B 地域経済の活性化**
- C 地域資源を活かしたまちづくり
- D 移住の促進

1 街道を軸とした広域観光の推進(東海道53次・57次)

観光国際課

補正額

| 事業費 | 国庫支出金(1/2) | 県支出金 | 市債 | 一般財源 |
|---------|------------|------|----|---------|
| 2,760万円 | 1,380万円 | | | 1,380万円 |

地域未来交付金

背景

- 東海道で最多の6宿場を有する静岡市が中心となり、2025年に「東海道57次区市町連携協議会」を立上げた。
- 京都までの東海道53次に加え、大阪までの4宿を含む57次全体の相互観光誘客・周遊を進めているが、静岡市においては、観光客の滞在時間の短さや、観光消費額単価の低さが課題となっている。
- 各宿場や自治体ごとに情報発信は行われているが、東海道全体としての歴史・ストーリーや、宿場巡りのための観光情報が観光客にとってわかりにくい状態となっている。

目的

- 広域で観光情報を一体的に発信し回遊を促進することで、滞在時間の延伸と観光消費の拡大を促進する。特に2峠8宿(静岡・藤枝)での滞在型観光を定着させる。
- 市が東海道57次を一体的な歴史・観光街道として捉え、他の宿場を訪れた観光客に対して静岡市への来訪を促すとともに、街道全域への往来を促す。これにより、広域的な人の循環を生み出すことで、街道全体における経済の活性化につなげる。

実施内容

- ①東海道57次における観光情報を一元的に連携する新たなデジタル基盤を構築し、各自治体や観光団体が個別に管理・運用している観光ウェブサイトと連携する。あわせて、各自治体等に対し、東海道57次区市町連携協議会への参画及び同デジタル基盤への連携を働きかけていく。
- ②デジタル基盤上に、宿場間を巡るデジタルスタンプラリー機能を搭載する。日本遺産に認定されている2峠8宿(静岡・藤枝)の区間は2026年度中に構築し、2028年度までに57宿すべての区間でデジタルスタンプラリーの運用を開始する。

(参考)東海道57次について

観光国際課

概要

○江戸時代に整備された東海道は江戸と京・大阪を結ぶ重要な街道である。

東海道は、歌川広重が描いた浮世絵「東海道五十三次」などの影響もあり、江戸「日本橋」から京「三条大橋」を結ぶ「東海道53次」が広く知られているが、京都手前で分岐し、伏見・淀・枚方・守口の4つの宿場を経て大阪「高麗橋」に至る「東海道57次」もある。

東海道に残る歴史・文化・食など地域資源を活用し、東海道沿線の自治体では、東海道や宿場の地域資源を活用した地域づくり、まちづくり、観光誘客に取り組んでいる。また、各宿場において地域団体も各々で活動を行っている。

<参考図>



2 駿府城公園紅葉山庭園茶室の改修

歴史文化課

補正額

| 事業費 | 国庫支出金(1/2) | 県支出金 | 市債 | 一般財源 |
|---------|------------|------|-------|------|
| 1,400万円 | 700万円 | | 630万円 | 70万円 |

背景

地域未来交付金

- 駿府城公園(東御門・巽櫓、坤櫓、紅葉山庭園)には、駿府城跡の歴史を活かした観光地として、多くの観光客が訪れている。また2026年度に整備する天守台野外展示施設との一体的な活用により、駿府城公園の観光・交流拠点としての魅力が、これまで以上に高まる。
- 静岡市の観光においては、滞在時間の短さ、観光消費額単価の低さが課題となっている。また、歴史・文化・景観資源を活かした高付加価値な観光コンテンツの充実が求められている。
- 紅葉山庭園茶室は2001年の供用開始から約25年が経過しており、設備等の経年劣化への対応や、施設の稼働率が低いことが課題となっている。

目的

- 紅葉山庭園茶室の補修・改修を行い、情緒を感じられる空間としての魅力を高める。
- 駿府城公園が有する歴史・文化・景観資源を活かしながら、静岡市が誇る食、歴史、文化等を組み合わせた高付加価値な体験を提供することで、滞在型観光の推進及び駿府城公園のブランド力向上につなげる。

実施内容

紅葉山庭園茶室について、経年劣化した設備の更新のための補修・改修設計を実施する。
設計では、来訪者が情緒を感じながら、宿泊も含め快適に滞在できるよう改修内容を検討する。

- ・実施内容 駿府城公園紅葉山庭園茶室改修設計
- ・スケジュール 2026年度 設計
2027年度 改修工事

3 模型活用STEAM教育プロジェクト

産業振興課

補正額

| 事業費 | 国庫支出金(1/2) | 県支出金 | 市債 | 一般財源 |
|-------|------------|------|----|-------|
| 500万円 | 250万円 | | | 250万円 |

背景

地域未来交付金

- 静岡の模型産業は、教材として普及し、子どもの学びを支えながら発展してきた歴史を持つ一方、現在は、AIやデータ活用型教育への転換が進み、従来の活用手法だけでは模型の持つ教材力を最大限発揮することが難しくなっている。
- 世界的にSTEAM教育※が拡大する中、模型の教材力を活用した新たな教育モデル構築に向けた産学官(模型メーカー・センサメーカー・教育委員会・大学等)による協議を進めている。

※ STEAM教育:科学、技術、工学、芸術等、数学を横断的に学び、課題解決力や創造力の育成を目的とする教育手法

目的

- 模型産業の強みと、模型が本来持つ「教材力」を活かし、静岡発のSTEAM教育モデルを構築し、データ活用力や課題解決能力を持つ次世代人材を育成する。
- 新教育モデルで活用する教材を、新しい時代の模型教育ビジネスとして産業化し、世界市場への展開を目指す。これにより、新たな需要を創出し、静岡市が誇る模型産業の更なる発展につなげる。

実施内容

- 模型を活用した次世代型STEAM教育プログラム構築に向けた構成設計・事前調査、モデル校での試行
 - ・プロジェクト全体設計の検討
 - ・ミニ四駆の加速度や傾きなどを測るセンサの搭載に向けた技術調査
 - ・ミニ四駆のシミュレーションを行うデータ活用型教育の導入調査
 - ・上記調査を踏まえた教育カリキュラム検討
 - ・モデル校でのSTEAM教育プログラムの試行

【プロジェクト内容】

- 産学官コンソーシアムの設立
参加者:学校・大学・企業(模型・センサメーカー)・行政
- 教育プログラムの構築
ミニ四駆に加速度や傾きなどを測るセンサ・AI等の先端技術を搭載し、データ取得及び分析やデジタルツインによるシミュレーションと実機走行での検証を通じ、「データに基づいて考え、改善する力」を育成する。
- 教育現場へのSTEAM教育プログラムの導入
- 新たな模型教育ビジネスの産業化、世界市場への展開

- A 子育て支援の充実
- B 地域経済の活性化
- **C 地域資源を活かしたまちづくり**
- D 移住の促進
- E その他

1 歴史的風致維持向上計画(歴史まちづくり計画)の作成

歴史文化課

補正額

| 事業費 | 国庫支出金(10/10) | 県支出金 | 市債 | 一般財源 |
|-------|--------------|------|----|------|
| 500万円 | 500万円 | | | |

背景

観光振興事業費補助金

○歴史的建造物や伝統的な活動は担い手不足により維持が困難になっており、地域の歴史的風致の保全が課題となっている。また、地域として一体的に保全・活用する枠組みが不足している。

※歴史的風致…「地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動」と「その活動が行われる歴史上価値の高い建造物」及び「その周辺の市街地」とが一体となって形成されてきた良好な市街地の環境

目的

- 市内の歴史的風致を維持・向上させることで、地域固有の歴史的建造物や伝統的な活動への住民の理解と関心を深め、持続可能な地域運営の基盤を構築する。
- 住民の地域への誇りと愛着を醸成するとともに、来訪者の増加、地域経済の活性化へつなげる。

実施内容

○歴史まちづくり計画の作成

既存の文化財・景観・観光計画を基盤とし、市内の歴史的風致を整理した上で、市全体の維持・向上の方針を確立する。その上で、歴史的建造物や人々の活動が特に集積する地域を「重点区域」として設定し、久能山下地域や蒲原地域などで地域の固有の歴史的背景や生活文化に応じた具体的取組を定める。

これにより、地域の歴史的風致が保全され、住民の地域への誇りや愛着が醸成されるとともに、暮らしの中で歴史・文化を活かした持続的な地域運営につなげていく。

計画期間：2027～2036年度(10年間)

想定取組：久能山下地域：久能山東照宮表参道エリア連絡調整会の開催、環境整備(駐車場の整備、参道の修景)等
蒲原地域：蒲原地域まちづくり会議の開催、歴史的建造物の修理等

2 静岡市ネイチャーポジティブの推進

環境共生課

補正額

| 事業費 | 国庫支出金 | 県支出金 | その他(基金繰入金) | 一般財源 |
|---------|-------|------|------------|------|
| 3,067万円 | | | 3,067万円 | |

背景

森林環境基金 1,500万円
南アルプスユネスコエコパーク保全活用基金 1,567万円

○静岡市は南アルプスから駿河湾に至るまでの世界に誇る豊かな自然を有しており、古くから自然の恵みが市民の生活を支えてきた。しかし近年の地球温暖化等により自然は急速に荒廃しており、土砂災害リスクの増加や、野生動物の市街地の出現など市民生活にも影響を及ぼしかねない状況となっている。そのため、すでに損なわれてきた自然を保全するだけでなく、より豊かにしていく「ネイチャーポジティブ(自然再興)」を推進する必要がある。

目的

○静岡市のネイチャーポジティブを社会(市民、企業、NPO等、教育研究機関、行政)の共働・共創により推進し、生物多様性を保全するとともに、自然環境の豊かなまちを実現する。

実施内容

ネイチャーポジティブの取組への社会の理解と共感の輪を広げ、より多くの資金や担い手を確保するため、OECD(経済開発協力機構)との共働により世界の先進事例を研究しながら、静岡市の自然を可視化する指標を策定し、生物多様性の保全に関する現状の取組を評価し見直しを行う。

OECDとの共働による政策提言・評価レポートの作成、OECD加盟諸国とのネットワークの構築を行うことにより、
①先進的な知見の共有 ②市の取組の信頼性の向上 ③市の取組に対する投資及び融資の増加
④市の取組を検証しよりよいものに改善 ⑤市の取組が世界に発信されることによる魅力・ブランド価値の向上を図る。

これにより、社会の共働・共創による静岡市のネイチャーポジティブを推進していく。

南アルプスユネスコエコパーク(高山植物の保全・再生等)、森林(人工林の適正管理、自然林の復元等)
里地里山・市街地(放任竹林対策、都市空間・眺望の改善等)、海洋(駿河湾の藻場の再生等)

3 南アルプスネイチャーポジティブの実行

環境共生課

補正額

| 事業費 | 国庫支出金 | 県支出金 | その他(基金繰入金) | 一般財源 |
|---------|-------|------|------------|------|
| 2,500万円 | | | 2,500万円 | |

南アルプスユネスコエコパーク保全活用基金

背景

- 南アルプスでは近年、ニホンジカの食害による高山植物種への影響など貴重な自然環境の損失が深刻化している。このような課題に対し、県・市及び民間等が将来にわたって持続的に取組を実施していく具体的な計画が示されていない。
- リニア中央新幹線建設工事による生物多様性の損失が懸念されている。このため、社会の協働で、損失を上回るようなネイチャーポジティブ(自然再興)の取組を行っていくことが必要である。

目的

- 世界的な自然の宝庫である南アルプスユネスコエコパーク静岡市域のネイチャーポジティブに貢献する取組を社会の共働で着実かつ継続的に実施し、次世代に豊かな自然を引き継ぐ。

実施内容

南アルプスネイチャーポジティブ実行委員会を設置し、南アルプスにおける今後の取組を具体化した実行計画を策定する。また、積雪期に対応した新規防鹿柵の開発を行う。

- ・実行委員会の体制 静岡市、川根本町、静岡県、東海旅客鉄道(株)、十山(株)、(一財)南アルプスみらい財団(事務局)
- ・実行計画の内容 防鹿柵の設置、社会参加拡大のための基盤整備等(10年計画を予定)
- ・スケジュール
 - 2026年7月～9月頃 実行委員会設置
 - 10月～ 南アルプスネイチャーポジティブ実行計画策定作業(調査、施策検討等)
 - 新規防鹿柵の開発・テスト
 - 2027年4月～ 実行計画に基づく取組の実施

- A 子育て支援の充実
- B 地域経済の活性化
- C 地域資源を活かしたまちづくり
- **D 移住の促進**
- E その他

1 移住者向け住まい提供事業

住宅政策課

予 算 額

| 事業費 | 国庫支出金 | 県支出金 | 市 債 | 一般財源 |
|-----------|-------|------|-----|-----------|
| 1億9,547万円 | | | | 1億9,547万円 |

背 景

※今後、入居者から家賃(使用料)を徴収する

- 静岡市は急速な人口減少が続いており、何も対策を講じなければ、2050年には、人口が50万人を切ると推計されており、目標の55万人を達成するため様々な移住・定住の取組を実施している。
- 市営住宅には空き室があり、利活用が可能である。
- 移住を検討している方や、移住を決めたもののすぐに住まいを決められない方が安心して移り住めるよう移住検討の段階から定住までの間、期間限定の住まいの提供へのニーズが大きい。

目 的

- 市営住宅の空き部屋を有効活用し、移住検討の段階から定住までの間の住まいを確保することで、移住促進と定住人口の増加を実現する。
- 移住を検討している方が、静岡市で2週間程度の暮らしを体験し、安心して移住を決められるよう、市営住宅の空き部屋を提供する。
- 静岡市への移住を決めたものの、すぐに住まいを確保できない方が、2年程度生活基盤を整えながら住まい探しができるよう、市営住宅の空き部屋を提供する。

実 施 内 容

すでに提供している12戸に加え、ニーズが高いJR静岡駅に近い住戸を中心に、市営住宅の空き部屋を改修し、移住者向け住まいの提供戸数を拡大する。
また、2027年度以降の拡大に向けた設計を進める。

- ・実施内容 市営住宅の改修 39戸 (12戸→51戸)
市営住宅の設計 73戸
- ・スケジュール 2026年12月 改修完了
2027年 1月 募集開始

移住者向け住まい総数

| | |
|------------|-----|
| (継続)羽衣団地 | 10戸 |
| (新規)駒形団地 | 15戸 |
| (新規)新通団地 | 7戸 |
| (新規)若松町団地 | 5戸 |
| (新規)北番町団地 | 5戸 |
| (継続)有東団地 | 2戸 |
| (継続)清水船原団地 | 7戸 |

計 51戸 14

(参考)既存住宅地再生推進モデル事業(国土交通省直轄事業)

住宅政策課

2026年4月 国交省から静岡市の事業が採択(全国23自治体の中の1つ)

事業期間：2026年から2030年までの5カ年

目的

○空き家未然防止対策と空き家の更なる活用推進

事業要件

- ①市街化から概ね30年以上経過
⇒上下水道や固定資産税等の情報から築30年以上の住宅を調査(実態調査)
- ②高齢化・相続の増加等により、今後空き家率の上昇が予見される住宅地
- ③住宅地から県庁所在地通勤圏(自宅から通勤時間が1時間)である
⇒静岡鉄道沿線の草薙駅他1, 2駅を対象とし、各駅から半径1kmの範囲を想定

取組のイメージ

以下の①②が本事業における国交省の支援対象

①『事業要件①』の実態調査を通じた重点区域設定(草薙駅他を対象とし、各駅から半径1kmの範囲)

②住宅所有者に個別アプローチを行い、空き家になる前にサブリース活用を検討
空き家所有者にサブリース実施の提案を合わせて行い、賃貸・売却に繋げる(不動産事業者と共に簡易インスペクションを行い、所有者へ賃貸料、売却額の提案をすることで契約に繋げる)

実施方法

国土交通省直轄事業のため、国採択のコンサルタントによる支援を受け実施(静岡市負担額0円)

- A 子育て支援の充実
- B 地域経済の活性化
- C 地域資源を活かしたまちづくり
- D 移住の促進
- **E その他**

(参考) 葵区牛妻・門屋導水管布設替工事

水道建設・維持課

補正額

《水道事業会計》

| 事業費 | 国庫支出金(1/3) | 県支出金 | 企業債 | 損益勘定留保資金等 |
|--------------------|------------|------|------------|-----------|
| △3億5,000万円 | △1億333万円 | | △2億4,660万円 | △7万円 |
| 債務負担行為額: 9億5,000万円 | 3億円 | | 6億5,000万円 | |

背景

水道施設整備費補助金

- 牛妻・門屋導水管は1937年に供用開始(2026年で89年が経過)しており、老朽化している水道管である。
- 静岡市全体の約2割の水の供給を担う重要な管で、上下水道一体の「選択的線的耐震化」における起点となる部分であり、災害拠点病院である静岡県立こども病院ほか29の重要施設への水道の安定供給を図る。
- 地方公営企業法(第17条の2第2項)に基づき、水道事業は「独立採算制」であり、原則、税金に頼らず、水道利用者の料金収入で運営する仕組み。
- 水道事業会計の2026年度総予算額は211億 3,400万円であり、一般会計からの繰入金(市民の生活を守るため、市民全体で負担する消火栓の工事費など)は約4億6,500万円(約2.2%)である。

目的

災害時でも災害拠点病院等の重要施設に水道を安定供給できるようにする「選択的線的耐震化」の一環として、安倍川の牛妻水源地から採取した原水を門屋浄水場に送る導水管を耐震化する。

実施内容

- 牛妻・門屋導水管耐震化工事
- 工期: 2026~2029年度までの4年間
- 総事業費: 36億円
- 2026年度: 1億円
- 2027~2029年度: 35億円(債務負担行為)

| 支出 | 収入 |
|------|------------------------------|
| 36億円 | 国庫補助金 11億8千万円 |
| | 企業債 24億2千万円 (水道料金収入※2) |

(参考: 水道事業会計の収支構造と国庫補助金活用の重要性)
水道料収入のみで工事をする場合、水道利用者1人あたり5,481円の負担だが、国庫補助金の活用により、一人あたり、1,797円の負担減少に相当

11億8,000万円 ÷ 656,789人 ÷ 1,797円
給水人口(※1)(2024年度決算値)

※1 「給水人口」とは、給水区域内に居住し、水道により給水を受けている人口のこと。

※2 企業債の返済には水道料金収入を充てる。

(参考) 葵区牛妻・門屋導水管布設替工事

水道建設・維持課

牛妻・門屋導水管について

- 葵区牛妻・門屋導水管は、静岡市全体の約2割の水の供給を担う管である。
- 水道の供給先には災害拠点病院や避難所など30の重要施設がある。

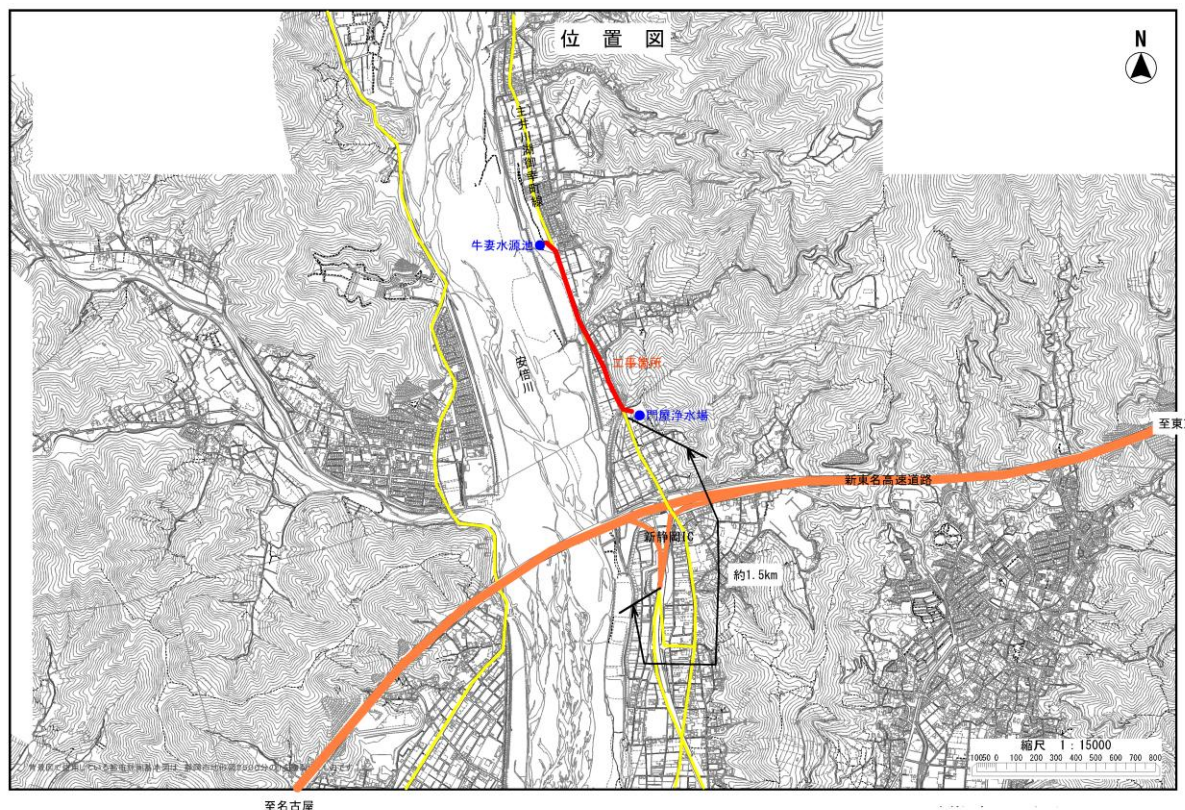
災害拠点病院：静岡県立こども病院、透析病院

避難所(S)：西奈小学校、西奈南小学校

避難所(A)：千代田小学校、北沼上小学校、麻機小学校

避難所(B)：麻機中学校、静岡東高校、西奈中学校、竜爪中学校

その他：指定避難所



(参考) 葵区牛妻・門屋導水管布設替工事

水道建設・維持課

牛妻・門屋導水管について

